

滝瀬遺跡 18B 区の竪穴群と年代



はじまりの“ムラ”―設楽町滝瀬遺跡―

早野 浩二

キーワード：縄文時代草創期・早期、竪穴建物（竪穴状遺構）、定住

〔1〕設楽町滝瀬遺跡の発掘調査

- ・北設楽郡設楽町八橋（やっはし）字タキセに所在
- ・境川右岸の河岸段丘上から山麓の丘陵斜面に立地（標高は420～440m）
- ・平成27・28・30年度、設楽ダム建設事業に伴い発掘調査
- ・主として、縄文時代草創期から早期・中期・後期の遺構と遺物を確認

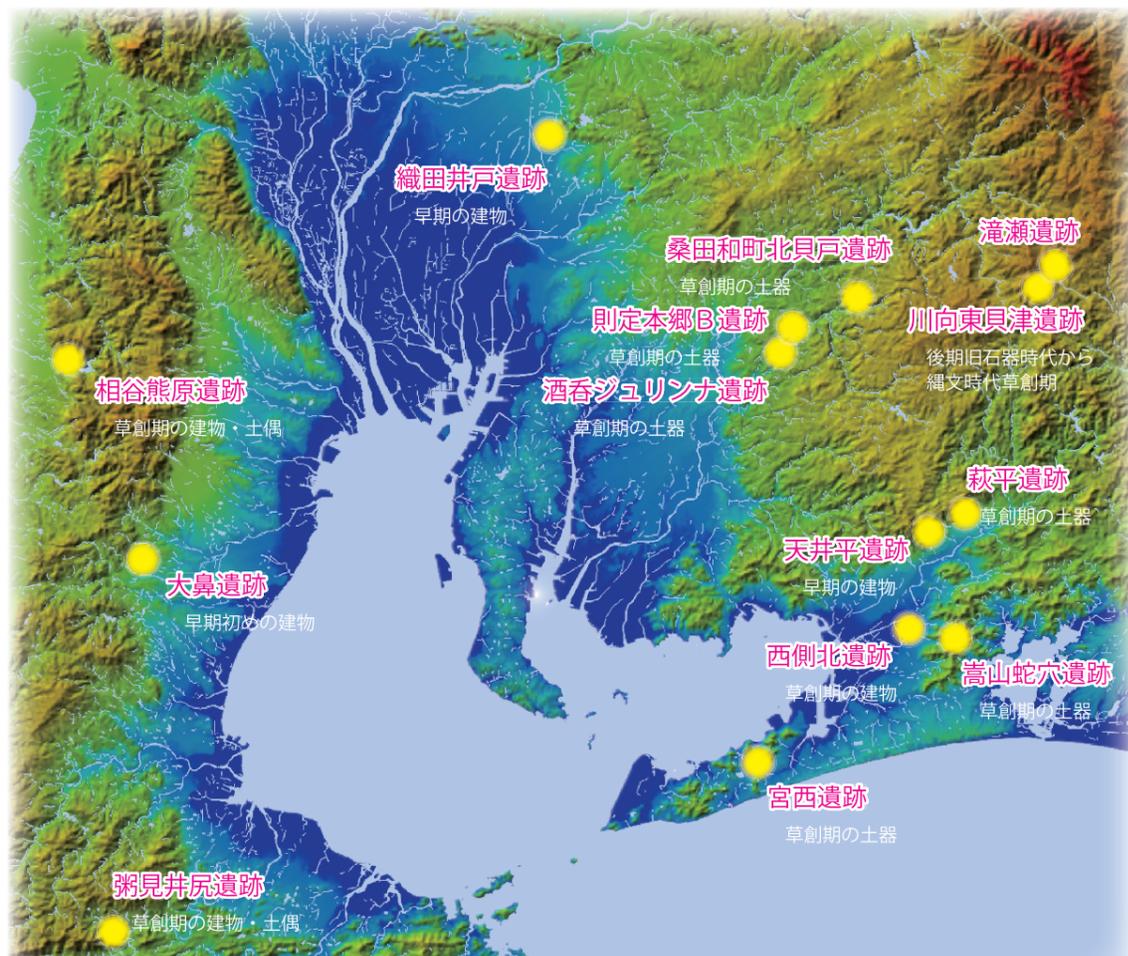
〔2〕縄文時代早期前葉以前（草創期末から早期初頭）の竪穴建物（竪穴状遺構）群

- ・縄文時代早期前葉以前（草創期末から早期初頭）の竪穴建物（竪穴状遺構）群
- ・竪穴は11基を検出、相互に重複する竪穴もある
- ・規模は長軸5mから6mの大型、4m程度の中型、2mから3mの小型がある
- ・丘陵側を深く掘削する竪穴、全体が楕円状に深い竪穴、緩やかな竪穴がある
- ・確実な柱穴や炉はほとんど見つかっていない
- ・竪穴からは縄文時代早期前葉以前（草創期末から早期初頭）の土器、石器が出土
土器は約150点が出土、表裏縄文系、撚糸文系が主、押型文系はごく少ない
石器として、石皿・台石類、磨石・敲石類、石鏃、石錐（いしきり）、剥片等
- ・竪穴の床面付近に良好に遺存していた炭化材を年代測定
 ^{14}C 年代 = 9580 ± 30 、暦年代に校正した年代範囲で11102-10757calBP (95.4%)

〔3〕まとめ

- ・滝瀬遺跡は初期の定住集落の様子をうかがうことができる重要な遺跡

次回は9月5日（土）「弥生時代の建物と建築材」 樋上 昇



滝瀬遺跡と関連する遺跡の位置

設楽町滝瀬遺跡 18B 区の 縄文時代草創期から早期の遺構



1 しっかり掘り込んだ竖穴 807SI



2 焼け残った建築材



3 重なり合う 848SI と 809SI



4 五角形とえぐりが特徴の石鏃



13 かなり立派な黒曜石の刃物



5 829SI の土器と石器



14 焼けた石を集めた施設 (早期?)



12 大量の石器や土器が出土!



11 845SI の石器など



10 840SI を確認したところ



9 石皿・台石を集めた 851SK

**縄文時代草創期末から早期初め、約 11,000 年前の
一丘の上のはじまりの“ムラ”が見つかった!**

滝瀬遺跡 (たきせいせき) 18B 区では、県道から 15m も登った丘陵上の南西向き斜面で、合計 11 基の竖穴建物 (たてあなたても) の ①~⑫が見つかりました。竖穴建物には重なり合う 809SI ③・848SI ④もあります。建物は 40m ほどの範囲に広がり、大きさは大きい 830SI で 5m ほど⑥、小さい 839SI は 2m ⑧で、多くは 3m から 4m の大きさです。これらの竖穴建物は、しっかりと掘り込まれた 807SI ①や 809SI ③もありますが、煮炊きする炉や、しっかりとした屋根を支えるような柱の穴が見つかりません。こうした建物の構造や、竖穴建物に残されていた土器、石器の特徴、さらには科学的な年代測定の結果から、竖穴建物の年代は、この地域で定住生活が始まって間もない頃、縄文時代草創期 (そうそうき) 末から早期 (そうき) の初め (約 1 万 1 千年前) と考えられます。

竖穴建物には多くの石器や土器が出土した 830SI ⑥や 845SI ⑫もあります。土器や石器からは、この頃、土器の装飾には“縄文”も付けられるようになり、狩猟には槍ではなく弓矢 (石鏃 (せきぞく) ④) が用いられ、磨石 (すりいし) や石皿 (いしざら) ⑦・⑨で木の実を盛んに加工するようになったことも分かります。

その他 18B 区では、焼けた石を集めた縄文時代早期? の集石炉跡 (しゅうせきろあと) ⑭なども見つっています。



440

807SI

- ・深い掘り込み
- ・床面に炭化材

848SI

- ・重複 (809SI に先行)

809SI

- ・深い掘り込みと突出部
- ・重複 (848SI に後出)

829SI

- ・床面に土器

860SI

836SI

- ・深い掘り込み

845SI

- ・大量の遺物

18B 区

830SI

- ・大量の遺物

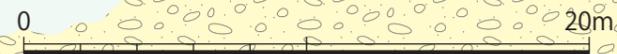
828SI

- ・床面に土器

839SI

840SI

- ・851SK



6 大量の石器や土器が出土!



7 木の実を加工する石皿や磨石が出土



8 2m ほどの小型の竖穴 839SI